

2024/12/2 (月)

朝の礼拝

聖書 イザヤ書 8 章 23 節-9 章 1 節 (旧約聖書 1058 頁)

しかし、抑圧された地から闇は消える。  
先に、ゼブルンの地とナフタリの地は  
辱められたが  
後には、海沿いの道、ヨルダン川の向こう  
異邦人のガリラヤに栄光が与えられる。  
闇の中を歩んでいた民は大いなる光を見た。  
死の陰の地に住んでいた者たちの上に光が輝いた。

### 闇夜の祈り

イエスが十字架に架けられ亡くなった後、弟子たちは旧約聖書、特に預言者の書に描かれているメシア、救い主とはイエスのことだったと信じ、イエスは待ち望んでいた救い主、キリストと伝えました。だからクリスマスにはイエスの生涯を描いたメサイヤが歌われます。

最初ユダヤ教から妨害、ローマ帝国から迫害、教会の中は分裂と異端で大混乱でした。やがて彼らが殉教しても病人、幼子、お年寄りに寄り添い続ける姿から、異教徒もイエス・キリストを世の光と信じ、最も闇の深い冬至の日を救い主の誕生、クリスマスとしました。

実はそれより約五百年前、預言者イザヤは、世の光はローマ、エジプトの大都市ではなく、異教徒に侵略されたゼブルン、ナフタリ、ガリラヤに住む人々の上に輝き、闇の中を歩んできた人々が大いなる光を見る、待望の救い主を信じるようになると伝えていました。

アドベントはラテン語で“Adventus”（到着）、また“Adventure”（冒険）の語源でもあります。救いを待つのは闇夜の冒険のようなものかもしれません。ただ信じて待つだけです。闇夜でともし火を絶やさないように、祈り続けることが大切です。

（しばらく黙祷しましょう）

慈しみ深い主よ、あなたはこの世で最も闇の深い時に、小さなベツレヘムの村の馬小屋に人知れず誕生されました。その頃も、今も、絶えず救いを待ち望む人々の祈りが献げられています。どうか愚かにも分かかれ争う人々に悔い改めの心を与え、嘆き悲しむ人々の祈りを省み、ひと時でも早い平和の時を与えてください。この世の光として、平和の君として来られたあなたを待ち望みます。どうか今日一日も、すべてをあなたに委ね、よき学びのうちに過ごさせてください。主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン